

里地里山保全・再生の特征的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.71		下大和田谷津		生物地理区分		コナラ林(東日本)	
				地域区分		都市周辺	
所在地	都道府県	千葉県	地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地	
	市町村	千葉市		4.低地	5.その他(谷津田)		
	集落名称等	下大和田、中野	環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田	
		4.畑		5.小川・水路	6.ため池		
				7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林	
				10.その他			

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの :それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
重要湿地 500、千葉市環境保全全部による市内 63 谷津の自然資質評価でトップにある。	重要湿地 500
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
谷津には湧水、絞り水が豊富。点的ではあるが湿田もある。典型的な千葉県北総地域の谷津田環境がまだ残っていて、メダカ、タニシ、ニホンアカガエルを始め、こうした環境にすむ動植物が多い。夏の夜にはヘイケボタルも舞い、大型のダイサギ、アオサギも生息している。繁殖は確認出来ていないが、サンバ、オオタカ、ノスリも存在し、食物連鎖の頂点まで完結している。また、昆虫の種も数も多い。湿地環境が残っているため、イチヨウウキゴケ、トチカガミ、サンショウモ、タコノアシ、ミズニラ、ミズワラビ、オモダカ、ヘラオモダカといった湿生植物も多い。	重要湿地 500 の「160 千葉県北総地域の谷津田、水路、湧水」の一部を形成しているが、耕作放棄田が多くなり谷津田景観は劣化の一途をたどっている。 観察ガイド「下大和田 生き物のにぎわいと私たちの暮らし図鑑」を発行



撮影時期：2009年2月

写真の説明：千葉県の北総地域の代表的な地形である谷津田。両サイドを斜面林で囲まれ台地には畑、森林、住宅がある。穿たれた低地は集水域からの湧水、絞り水が豊富で古くから稲作が行われてきた。湿田で深い田、稲作は労力が大きく、農家の高齢化などにより放棄田が多くなりヨシやセイタカアワダチソウに覆われているところが多い。



撮影時期：2009年2月

写真の説明：この谷津田には昔ながらの小川が残っている。水の切れない田んぼと小川が湿性動植物を育てている。圃場整備をして冬季乾田化した現代の稲作で減んだ希少種がここでは豊富に生息している。

NO.71		下大和田谷津		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	千葉県			2.団体・企業・学校等
	市町村	千葉市			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	下大和田、中野			4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他	

取組主体	主な主体の名称		NPO 法人ちば環境情報センター、ちば・谷津田フォーラム	
	その他の主体の名称		千葉県環境農林水産部	
目的 :主 :その他	1.農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化(伝統的なものも含む)			
	対象・取組内容		千葉県の代表的な地形の谷津田環境にあるが大手デベロッパーが広範の土地を入手宅地開発を計画したが頓挫、加えて高齢化に伴い稲作をやめる農家が多くなり放棄田が占有するようになってきている。千葉市で自然資質評価が高いこの環境を維持したいと2000年から谷津田保全活動を開始。自然観察会、離農する農家を援農し古代米稲作、環境教育などを実施。千葉県の里山条例を活用した隣接する斜面林の手入れ等を行う。	
	支援措置			
	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用			
	自然観察会	*	「下大和田谷津田観察会とゴミ拾い」。2000年2月から毎月第一日曜日に定例実施、2011年3月で134回となった。	
	環境教育・学習活動	*	米作り講座、こども環境講座、里山で描く漫画講座、幼稚園児の環境教育(ザリガニ釣りなど)、こもれび会議(環境に関するひとテーマをその道に通じている講師を中心に車中で話し合う)などを随時実施している。	
	里地里山体験・環境保全	*	「下大和田谷津田プレーランドプロジェクト」を毎月1回定例実施。自然に親しみながら動植物と共生する年間を通じた米作りや林の手入れなどを行っている。2011年3月で120回となる。	
	農林業体験活動	*	上記3項を通じて稲作体験、林の下刈りなどの体験活動をしている。	
	エコツアー			
	その他	*	各活動を通じ動植物の生息記録をとっている。	
	4.野生動植物やその生息地の保全・管理			
	取組内容		放棄田は3年も経過すれば葦原となってメダカやカエルは生息場を奪われてしまう。水田を維持することが谷津田環境の保全することになると考え、高齢化などで米作りをやめる農家から指導を受けながら、古代米を中心に栽培することで保全することにした。 毎月1~2回米作りを中心にしたイベントを行い、幼児から高齢者まで参加できる形で水田を維持。 毎月1回自然観察会を実施、その過程などで生息する動植物を記録。 に自然観察会時にゴミ拾いも併せて実施、また、年に1~2回は不法投棄されたものを役所に依頼、撤去、環境を維持	
	5.地域の良好な景観の保全・修復			
	取組内容		米作りをすることによる谷津田景観の維持。小川のアシ刈り、林縁の草刈り、斜面林の手入れなど。	
	6.里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承			
対象	生活行事	*	収穫祭と餅つき、どんど焼き、野草を食べる会、かかし作り。	
	資源利用技術	*	米作り。	
	その他	*	こどもの昔遊び。	
取組内容		谷津田で作った緑米で餅つきをして収穫祭を祝う。1月はどんど焼き、3月には七草にちなんで野草を食べる会、8月にはかかしを作って田んぼに立てている。		
7.その他				
取組内容		放棄田の耕作による湿田環境の維持		

連携・協働による取組 内容・役割分担等	千葉県の上山条例を活用し、地権者との間で協定を結び（2004年3月）、耕作田に隣接する斜面林を手入れ（下刈り、雑木林の復元など）を行っている。県が間に入ることで地権者とのトラブルを回避できている。
取組の特徴や強調したい点	<p><運営のしくみ、参加形態></p> <p>リーダーシップが取れるまとめ役が存在：環境情報センター代表が全体を統括しており、その元に観察会、谷津田プレーランドプロジェクト、米作り、山林の手入れ、それぞれに中心となるスタッフがいて機能している。</p> <p>活動はすべて自由参加として門戸を開く：幼児から大人まで自由に参加可能な形をとっている。保険代、資料費など参加費 300 円を徴収。</p> <p>楽しみながらの活動：どんど焼き、ニホンアカガエルの卵塊調べ、春の野草を食べる会等、田んぼや山林の作業と抱き合わせながら遊びだけでも参加できる。</p> <p>多様な参加形態：イベントで共同で米作りをする田や、個人的に田んぼをやりたい人に何枚かの田んぼを任せる形など異なる参加形態を用意。条件は生き物と共生する田んぼ作りで、湿田環境を保つこと、農薬、化学肥料は使用しないこと。</p> <p>観察会は毎月その季節に見られる動植物を取り込んだ資料を配布。</p> <p>「谷津田だより」を毎月発行するなど情報発信にも力を入れている。</p> <p><取組の特徴></p> <p>幼児から後期高齢者まで各年代層が参加している。</p> <p>縛りのないゆるやかなグループの有り方が居心地を良くし、参加者の確保と長続きにつながっている。</p> <p>都市の近くで子ども達がメダカやドジョウを掬ったり、カブトムシやクワガタムシと触れ合える場所として貴重である。</p>

取組の概要	市民参加による米作り、自然観察会を通じて、谷津田保全を進めると共に、谷津田の自然の魅力を広く伝えている。	課題グループ
事例の特性	市民への関心喚起、市民参加による米づくりでの谷津田保全。	野生生物 景観文化 学習体験 仕組 手法
取組の中で他の地域の参考となる点	市内でも有数の自然資質を持つ谷津環境を保全・回復すべくNPOが主導して、自然観察会、援農による古代米等の稲作、隣接する斜面林の手入れなどを実施。子どもたちも大人もがメダカ、ドジョウ、カブトムシなど様々な生きものが暮らす自然に触れたり、農業を楽しみながら体験したりできる貴重な場となっている。	